

## 鳥取大学

連携自治体：鳥取県、鳥取市、米子市、日南町、琴浦町、南部町、大山町、江府町

## 事業名：知の発展的循環プロセスの構築による地域拠点整備事業



### 事業の概要・目的

#### (地域の課題)

連携自治体の課題(平成25年度申請時点)

#### 鳥取県:

- 人口減少、少子高齢化、中山間地の過疎化
- 経済のグローバル化による製造業の空洞化など
- 生活・産業のイノベーションに必要な人材等の不足

#### 連携自治体:

- 地域産業の担い手不足
- 地域の活力、コミュニティカの低下

#### (課題解決のための大学の取組)

教育	<b>地域を志向し活力と実践力のある人材の育成</b> ●地域の社会的特性や文化を学ぶ教育プログラム ●地域づくりを実践する教育プログラム ●地域看護等に携わる人材育成教育プログラム ●各学部の地域課題解決を目指す教育の充実
	<b>地域課題解決教育研究によるイノベーション創出</b> ●地域志向型教育研究プロジェクトの充実 ●地域課題研究ステップアップシステムの確立
研究	<b>地域と大学の緊密な連携・コミュニケーション</b> ●地域課題をテーマとしたレクチャー・ワークショップ ●外部サポート人材の育成と派遣 ●学生ボランティア派遣
社会貢献	※「社会貢献に寄与する教育研究」、「教育研究に還元できる社会貢献」、「研究プロセスの教育への活用」、「研究成果の教育への展開」を目指す

### 人材育成の取組

#### (人材育成像)

#### 『地域を志向し活力と実践力のある人材』

地域の特性や課題を理解し、地域づくりの現状や方法論を学ぶことで、将来、地域の課題を発見し、自ら課題解決や実践に取り組もうとする人材

#### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

「全学共通科目」の中に、地域の社会的特性や文化について学ぶ科目【**基礎科目**】、実際に地域を訪れるなどして地域の現状や課題を理解する科目【**臨地科目**】、地域づくりの手法や実践方法を身につける科目【**実践科目**】を設置し、地域理解や課題解決の資質・能力を高める。

- 【**基礎科目**】 地域の社会的特性や文化等を学ぶ
- 【**臨地科目**】 地域に臨むなどして地域課題を学ぶ
- 【**実践科目**】 課題解決や実践に取り組む
- 【**専門科目**】 地域づくりの理論や方法論を修得する

#### 【基礎科目】

##### ■「地域・日本文化」科目の充実

広く地域を理解するため、地域の社会特性や文化等について学ぶ「全学共通科目」を増設【1年次〜】

#### 【臨地科目】【実践科目】

##### ■「地域づくり実践」の教育プログラムの展開

地域がかかえている課題を学ぶとともに、地域から持ち込まれた課題を題材として地域の課題解決を実践的に学ぶPBL型教育プログラムを開発・実践

#### 【専門科目】

##### ■「地域看護等に携わる人材育成教育プログラム」の充実

チーム医療教育実習プログラムを開発し、連携自治体内に教育実践の拠点づくりを推進【3年次〜】

##### ■行政機関と連携した「プロジェクト型インターンシップ」の実施

連携自治体の協力により、学生の学びたい内容と自治体が求める内容とのマッチングを行ったインターンシップを実施

#### (これまでの成果)

- 「地域を理解する科目」(「地域・日本文化科目」)、「地域づくり実践に関する科目」からなる『地域志向科目群』(24科目)を設定し、「履修案内」に明示
- 「地域看護等に携わる人材育成教育プログラム」の運用と教育実践の拠点づくり
- 行政機関と連携した「プロジェクト型インターンシップ」の試行

##### ●事例1(専門科目/1単位)

##### 「過疎地看護演習」(医学部)

看護学・保健学地域チーム実習で、住民のいのちと健康を守る保健医療従事者育成プログラムの取組を実施

##### ●事例2

##### 「空き家活用プロジェクト」(米子高専)

街中の空き家を地域住民のコミュニケーションの場として活用するため、関連団体との協力でイベント、デザイン作品展、トークイベント、地域交流会などを実施

課題に対する大学の取組	25年度	27年度(予定)	29年度(目標値)
地域に関する授業科目の設置数	191科目	194科目	203科目
保健師・看護師の鳥取県内の就職者数	31名	34名	40名
プロジェクト型インターンシップへの参加学生数	0名	10名	16名

#### (卒業後の学生のイメージ)

- ①新たな地域社会システムやビジネスモデルを提案する自治体や企業の企画担当者
- ②起業家精神をもち現場で様々な社会的な実験に挑戦する 地域デザイナー・マネジャー
- ③リーダーシップをもち課題解決を楽しんで実践できる実務者

#### カリキュラムマップ

	全学共通科目		専門科目		卒業論文
地域学部	地域・日本文化科目	地域づくり実践科目	地域学入門等	インターンシップ	
医学部			地域看護実習等		
工学部			社会調査プロジェクト等		
農学部			フードシステム等		

地域の課題解決・実践能力を4年次まで段階的に育成する

#### (地域志向カリキュラムの特徴)

##### ■全学共通科目(H27年度新設)

- 「鳥取の歴史に学ぶ」(前期・100名)
- 「日本文学と地域文化」(後期・50名)
- 「地(知)的好奇心育成のための早期体験学習」(前期・15名)

##### ■地域づくり実践科目(H27年度試行)

地域から課題を持ち込み、学部横断的に参加した学生がその解決に取り組む。「地域起こし協力隊」等の参画も求め、その成果をインターンシップで活用する。

#### 『地方創生』に向けた地域課題解決の拠点として



鳥取県  
地域振興部長  
小倉 誠一

連携自治体と緊密な情報交換を行い課題に対応



COC事業の開始後、鳥取大学と鳥取県、県内の連携自治体は、受入れ側が提示する課題に取り組むプロジェクト型インターンシップをはじめ、地域の生活、産業、医療等に関する研究にこれまで以上に協力し取り組んでいます。今後も成果を挙げていくには、鳥取大学の知的資源、学生の皆さんの力が重要な鍵です。鳥取大学には地域の知の拠点として、本県における地方創生の推進力となっていたことを期待しています。

#### 地域の農家で農業実習を体験して



鳥取大学  
農学部 4年生  
山本 佳奈

楽しみながら貴重な体験をさせていただきました



私たちは地域と交流し、現状を理解するため、授業の中でピワ農家を訪れ、ピワの袋かけから収穫・箱詰めまでの一連の作業を体験しました。作業を手作業で行うことは予想以上に大変で、農家の方の御苦労が感じられました。ピワの箱詰め・選定も経験が必要で、次の世代に一番伝えていべきことでありながら、後継者不足などでそれが難しいことを理解しました。実習により農業をおとした地域づくりの課題について理解でき、今後の参考になりました。

## 島根大学

連携自治体：島根県、松江市、出雲市、大田市、安来市、雲南市

## 事業名：課題解決型教育(PBL)による地域協創型人材養成



### 事業の概要・目的



#### (地域の課題)

日本が複数の社会課題を同時に抱える課題先進国であるならば、島根県は、まさに「課題先進県」である。

島根県 人口減少に歯止めがかからず2014年4月に70万人を割り、65歳以上人口は既に30%を超える。面積の8割が過疎地域とされ、人口比にして半数近くが過疎に暮らす。



#### (課題解決のための大学の取組)

課題先進県ゆえに、現場で工夫を凝らし課題に立ち向かう多様なステークホルダーがすぐそばにある。  
→次代の地域像を模索する最前線が島根にある。  
従来の地域志向の大学づくりに加え、COC事業で多様な協働を促進し、人材育成機能を強化する。  
→島根だからこそできる地域志向教育で課題に挑む。

これについて、しまだいCOCではPBLを基軸とした変革を担う人材育成とイノベーション創出で応える。

#### 地域志向「教育」・人材育成

多様なステークホルダーとの協働による教育環境構築。教養教育と専門教育の有機的連携に基づく地域協創型人材育成(→事例1・2)。  
COC理念を凝集したCOC人材育成コース開設と地域貢献人材育成入試を実施。

#### 地域志向「研究」

学部を超えた研究組織である14のプロジェクトセンターによる地域課題・地域資源に直結した研究活動を重点化した。

#### 社会貢献

地域志向の教育・研究をより良い地域社会を、地域と協働を目指すための事業として位置づけ、シンポジウム等に加え、地域学習支援ITシステム等の多様なチャンネルを使い積極的に情報発信・広く活用。



島根大学の講義(事例1)も地域学習支援ITシステム(上)で配信、学習素材として活用。

### 人材育成の取組

#### (人材育成像)

大学で学んだ知識を地域・実社会における課題に活用でき、確かな専門性と行動力を身につけ、課題だけでなく地域の資産を見出し地域で活躍する高度専門職業人。

#### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

社会の変革やイノベーションに必要な要素は、地域をより良くしたいという思い、その実現可能性を高める専門性、豊かな発想力につながる着眼点・行動力・深い教養と考える。

そこで、①特別入試により所属学生を選抜するCOC人材育成コースを全学部に設置 ②地域に関わる教育科目について教養教育と専門教育の有機的連携を強化する全学的なカリキュラム改革を行うと同時に、③地域づくりに関わるPBL・セミナー・トークセッションなどを学部をこえて実施するほか、④地域志向教育研究経費を活用した地域志向科目の改善、⑤既存の学部カリキュラムに加え、観光産業のオペレーションや国内外に地域の情報を発信するメディア開発などを目指す特別副専攻プログラムの複数設置などを行っている。

#### (これまでの成果\*) \*成果は抜粋。

✓COC関連科目を可視化し分類、専門教育との有機的連携構造を強化した。



>全学的地域志向教育改革<

ベースストーン科目(ES科目):

専門教育の動機付けにつながる「掘り下げた地域基礎科目」(事例1)。必須科目とし、履修率100%を目標とした。キャップストーン科目(CS科目):

専門教育で培われた知を活用し高度な視点で地域を学ぶ科目を、専門別必須科目として設定した。

✓学部をこえて地域づくりに関わるPBLを実施した。  
✓かつCOC関連科目との連携を明確化・地域協創型の取組として実践した。

従来PBL型の教育は学部の専門教育領域で取り組まれてきたが、本事業で学部を超えた学際的PBLを構築・試行した(事例2)。多様な専門・志向の下で学生を育てることが、客観的自己認識につながるメタ認知能力を高め、これからの地域づくりに必要不可欠な協働・共創能力を高めた。

✓地域志向教育研究経費を活用し、従来から本学で広く取り組まれてきた地域志向科目を改善・深化。

学内で33件を採択した地域志向教育研究経費により、様々な領域において、地域志向の研究を進めると同時に教育への還元を行った(事例3)。

#### ●事例1(教養教育科目/2単位)「島根学」

全学共通でのBS科目として設定し、もともと島根県・島根市について学ぶが、多様なステークホルダーから「現在の島根に関するスペシャリスト」を招聘して多角的に島根の今を検証する科目として開講。例えば、新しい地域づくりで全国から注目される海士町や雲南市など改革を先導する行政トップによる講義を受けることができる。受講生の所属は全学部にとわり、約230名が履修した。事前・事後アンケートより、地域の資源発見と課題解決への導入という本科目の目的が達成されたことも明らかになった。



住民自治と教育に力を入れ、県内でも先進的な地域づくりを行う雲南市の速水市長の講義。

#### ●事例2(新規授業として準備中/1単位)

「地域資源の発見・活用ワークショップ」  
事例1の「島根学」の内容からスピノフしたPBLとして、自治体・企業と協働した教育プログラム。学内と地域での学びを連結し、同時に学部を超えた多様性の中で実践。参加学生は島根学履修者を中心に少人数を選抜し、3学部より8名受講。事後アンケートの分析から、地域課題理解・地域資源評価・地域資源活用・プレゼンテーション協創の4つの力が修得できたという結果を得た。さらに、正規授業化・長期間実践が望まれた。



#### ●事例3(地域志向教育研究経費の事例)

#### 「邑南ラボ」を拠点とした地域協創と人材育成

島根県西部の邑南町役場の一室に開設された「邑南サテライトラボラトリー」を活用した本学教育学部作野広和教授による地域協創型教育プログラムでは、同町をフィールドに、正課科目からゼミ合宿に至る様々な機会でのべ50名の教育学部生が参加し、地域の地誌書作成、世帯訪問調査、中山間地域の高校生と作る将来ビジョンの策定などを行い、成果報告として邑南ラボフォーラムを開催した。

#### (卒業後の学生のイメージ)

◆地域志向型の教養教育と専門教育により、地域づくりの推進者として地域で活躍し、地域と共に地域活性化や地域課題解決に取り組む高度専門職業人。



法文学・教育学・医学・総合理工学・生物資源科学—しまだいCOCの全ての領域が、地域:まち・ひと・みらいを創造する。

#### カリキュラムマップ

	学年					
	1	2	3	4	5,6(医)	
教養教育 (うちベースストーン科目)	●	●	●	●	●	●
専門教育 (うちキャップストーン科目)				■	■	■
地域貢献 インターンシップ				■	■	■

#### (地域志向カリキュラムの特徴)

◆地域志向教育と専門教育の相乗効果と異分野間PBLが生む学際的教育的展開  
◆連携自治体をはじめ多様なステークホルダーとの協働を生かした「地域協創型人材養成」を行う新たな大学教育の展開  
しまだいCOCの地域志向カリキュラムの特徴は、「地域」を共通項とした教養教育と専門教育の有機的連携、「地域基盤型教育」と「課題解決型教育」の強化及び、専門教育との往還を同時に図り、学生自らが資源・課題の発見や価値の創造につながるスキルを身につけることが大きな目的である。

高大接続の新たな可能性に挑戦・展開する地域貢献人材育成入試とCOC人材育成コースの教育では、次代の地域づくりを担う人材を、学部の枠を超えた多様性の中で育成することを特徴とする。

- 【中核的科目等(種別/対象/標準履修者/期間)】
- ・島根学(教養:BS科目/全学/250名/半年)
- ・スタートアップセミナー(教養:BS科目指定準備/全学/400名/半年)
- ・地域資源の発見・活用ワークショップ(課外/全学/10名/3日間集中)
- ・COCミライづくりセミナー(課外/全学/30名/半日)

課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度(目標値)	備考
COC関連科目:ベースストーン科目		42科目		*25年度はCOC関連科目構造化前のため、シラバスにおいて地域に関する内容を明示する科目数を計上。26年度に事業目標値(計100科目)を達成したため、29年度(最終年度)の目標値を上方修正し今後の取組の効果を考慮した科目数を計上した。
COC関連科目:キャップストーン科目	60科目*	58科目	130科目*	

### 地域に貢献する人材の育成に期待



島根県 政策企画局長  
丸山 達也

島根県の最大の問題は人口減少と少子高齢化の進行であり、これまでもこの問題に対処するために様々な施策を実施してきました。今後も、産業振興による雇用創出などで地域活性化を図ることが重要であり、これを担う人材の育成が大きな課題です。島根大学が実施される課題解決型教育や地域貢献人材育成入試を通じて、地域に貢献する人材が育っていくよう、島根県としても協力していきたいと考えています。

### より実践的な地域課題解決型教育の機会を



島根大学 生物資源科学部 地域環境科学科 環境資源工学教育コース 2年生  
藤井 春菜

私は水や土壌資源等の保全・修復を専攻しており、また地域活性化の手段として期待される、木質バイオマスの活用を勉強する研究会に参加しています。チップボイラの導入推進など大学や地域での活動を通して、自分たちの考えを実践する難しさや、地域に関する幅広い知識の必要性を感じています。本事業ではより実践的な地域課題解決型教育を学ぶことができるので、積極的に参加し、自分の専門性を地域に活かせるよう努力して行きたいと思っています。

## 島根県立大学

連携自治体：島根県、松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町

## 事業名：地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム



### 事業の概要・目的

#### （地域の課題）

##### 連携自治体の課題(平成25年度申請時点)

島根県は、人口減少・少子高齢化・過疎化が全国に先駆けて進行している。特に県西部(石見地域)では顕著であり、今後さらに県内の産業、交通、保健・医療・福祉、雇用等の多様な地域共通問題への取り組みを進めることが求められている。

#### （課題解決のための大学の取組）

総合政策学部(浜田市)、看護学部(出雲市)、短期大学部:保育・健康栄養・総合文化学科(松江市)の3キャンパスの連携を強化し、地元自治体・企業・NPO等と協働して、地域ニーズと大学シーズのマッチングを図る場である「縁結びプラットフォーム」を構築する。これにより、効果的な地域課題解決策を展開する。

教育	「しまね地域マスター認定制度」の構築
研究	「しまね地域共育・共創研究」の推進
社会貢献	3キャンパスボランティア活動の推進 遠隔講義を取り入れた公開講座の充実

### 人材育成の取組

「しまね地域マスター」認定制度を新設し、高い専門性と実践力のある人材輩出をめざす。

#### （人材育成像）

- 地域事情に精通した人材
- 地域社会を繋げるコーディネート力のある人材
- 熱意をもち、課題解決に取り組める実践力を持った人材

#### （目指す人材育成のためのカリキュラム改革）

- 「しまね地域共生学入門」の科目新設  
1年次の必修科目。島根県が数十年来直面している地域の諸課題と対応実践例を様々な角度から講義する。
- 「地域課題総合理解」の科目新設  
2年次のマスター必修科目。共通のテーマを定め、専門の異なる他学部の学生とディスカッションを行い、異なる専門分野の見方を理解し、地域課題を複眼的に、包括的に学ばせる。

#### 課題に対する大学の取組

	25年度	26年度	29年度 (目標値)
シラバスにおいて地域に関する学修を行うことを明示している授業科目	33科目	36科目	45科目

- マスター必修科目、選択必修科目、選択科目の設定  
地域の課題に対して専門的知見を持ち実践的に課題解決にあたることができる人材を育成するため、自らテーマを設定し、分析できる技量を身につけさせるのに必要な科目群を「マスター科目」として指定する。(51単位)
- 「地域共生演習」の新設  
2年次からのゼミ活動。地域に出て活動した成果や、それに基づいて取り組んだ研究成果・分析結果を客観的に確かめ、自ら政策提案の内容を具体化して実証することに取り組ませる。

#### （これまでの成果）

- 3キャンパスの教職員より、作業部会となる「教育支援部会」を設立。「しまね地域マスター」制度創設に向け検討開始。
- 「しまね地域共生学入門」のカリキュラム作成(開講期間:春学期:4~7月/必修/2単位)
- 「地域課題総合理解」「地域共生演習」の検討実施

#### ■ 人材育成の取組事例

- 事例1 (ゼミで行う調査研究)  
「浜田の「食」を取り戻せ！浜田の知られざる食の魅力 -地元の食を再考(再興)する脱・大量生産制の「まち弁」プロジェクト」

浜田市との共同研究。食材のニーズ・シーズ調査や各地成功事例調査を踏まえ「まち弁」試作を行う。地域資源の理解を深め、地域課題解決力を育む。



- 事例2 (ゼミで行う調査研究)  
「災害時に利用可能な情報通信技術の調査とデモンストレーション」

益田市との共同研究。通信インフラが被災して正常に動作しない場合にあっても情報伝達を実現する技術を調査する。ヒアリング調査やデモンストレーションを行い、企画・実践力や施策提案能力を育む。



#### （卒業後の学生のイメージ）

- ① 島根地域の実情をよく理解し、熱意をもって地域振興や地域コミュニティ支援に携わる自治体職員。
- ② 頑張る企業を応援する産業支援機関や金融機関の職員
- ③ 観光・まちづくり・駅前活性化等を担う地元団体やNPO職員

#### カリキュラムマップ CURRICULUM MAP

学年	1年	2年	3年	4年
演習科目				地域共生 卒業研究
専門科目		地域課題 総合理解	選択専門科目	
基礎科目	しまね地域 共生学入門			

#### （地域志向カリキュラムの特徴）

- 「しまね地域共生学入門」(対象年次:1年/2単位)  
・ 全学(3キャンパス)の必修科目。  
・ 3キャンパスの教員によりオムニバス方式で講義を行う。  
・ 1年次の授業であり、島根県全体の基礎知識・周辺知識を習得し、地域課題を理解することを到達目標としている。  
・ 特定の学問領域にとどまらず、複眼的に物事をとらえ分析することの重要性を学ぶ。
- 「地域課題総合理解」(対象年次:2年/1単位)  
・ 2年次において、複数キャンパスの合同で実施。集中講義方式。  
・ 共通の具体的な地域課題を取り上げて、専門の異なる学生同士で議論を行い、地域課題を複眼的に理解する能力をかん養する。
- 「地域共生演習」(対象年次:2~4年/計12単位)  
・ 2年次より実施するゼミ。1年次に学習した基礎を踏まえ、関心のある地域課題の解決に向けて自らの仮説を設定し、フィールドワーク等を用いた客観的な論証を通じ、その解決策の提案力を養う。

### 「しまね地域マスター」制度を通じた 人材育成の拠点として期待



島根県  
政策企画局長 (縁結びプラットフォーム運営委員会副会長)  
**丸山 達也**

島根県の中でも浜田キャンパスのある県西部は、特に人口減少・少子高齢化・過疎化が進んでおり、これらに伴う地域課題の解決のため、島根県立大学の資源が活用され、大学が地域再生と活性化の核になることを強く望んでいます。地域の課題解決には「ヒト」が重要であり、この事業による「しまね地域マスター」制度を通じて、地域事情に精通した地域に貢献するリーダーとなっていく人材を育成されることを期待しています。

### 大学生の地域貢献と課題



島根県立大学  
総合政策学部 総合政策学科 2年生  
**恩田 麻有**

私は地域政策プログラムに所属し、フィールド学習として地域と関わる機会が増えました。例えば、島根県大田市において町おこし事業の企画から運営まで、私たち大学生の力で成し遂げることが出来ました。少子高齢化が進んでいる島根県において、地域の方々には私たち若者に何を求めているのかを考え、行動を起こすことの重要性を知りました。大学生の私たちだからこその出来ることを追及し、今後も更なるステップアップを目指していきます。



## 島根県立大学短期大学部

連携自治体：島根県、松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、  
邑南町、津和野町

事業名：地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム



### 事業の概要・目的

#### (地域の課題)

島根県は全人口17,397人(H22国勢調査)のうち、人口の53.0%が、松江市と出雲市に集中しており、残りの17市町村は、過疎地域自立促進特別措置法上の「過疎地域」あるいは「みなし過疎地域」の指定を受けている。

また、松江市と出雲市も一部が過疎地域の指定を受けており、全19市町村が「過疎地域」指定対象となっている。

現状の最大課題は、人口減少に伴う高齢者比率の増大であり、平成24年の65才以上人口比率は29.9%で、全国3位となっている。こうした中「小規模高齢化集落」での集落維持活性化が求められている。

#### (課題解決のための大学の取組)

地域と共に人材を育成し、住み良い地域を共創し、持続可能な共生社会が実現することを目指して、全域的なワンストップ拠点「縁結びプラットフォーム」を構築する。

全キャンパス共通基礎科目「しまね地域共生学入門」の開設と「地域志向」専門教育推進、本学学生の自主活動と卒業研究における「地域活動」「地域課題への取り組み」推進、専任教員と小規模高齢化集落の課題解決を目指す地域専門職者との共同研究促進、その共同研究成果を含む履修プログラム「地域共生専門コース」の開発と研修を実施。

### 人材育成の取組

#### (人材育成像)

以下の能力を有する実践的人材を育成する

- 地域事情に精通した知識のある人材
- 課題対応スキルのある人材
- 様々な地域内の主体をつなげるコーディネート力のある人材

#### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

- 「しまね地域共生学入門」と「地域志向科目」による地域課題への基礎教育構築
- 「地域共生専門コース」履修証明プログラムの選択履修による問題意識の深化
- 卒業研究における「しまね地域共生センター」研究の一部参加による課題解決への展望

#### (これまでの成果)

- 平成26年4月に短期大学部キャンパス・プラトホーム「しまね地域共生センター」の設置及び運営のための専任職員の採用
- 専門職育成のための履修証明プログラム「地域共生専門コース」のプログラム開発のための地域連携コーディネーターの採用
- 既に開設している地域志向科目を選定し、平成26年度カリキュラムマップを作成し、平成26年度事業計画に「地(知)の拠点整備事業における地域に関する学修を行う授業科目一覧」を掲載
- 地域志向研究の「しまね地域共生センター」での管理統合、地域志向研究のリスト作成や活動内容をもとめた「地域研究と教育」の作成。発表された内容を掲載した「しまね地域共生センター紀要」準備号及び1号を作成。

#### ● 事例1(卒業研究/2単位)

#### 「しまね和牛」を利用した高齢者向けの食肉開発

地域食材の「しまね和牛」と「出西生姜」を組み合わせた高齢者向けの食肉開発を通じて、高齢化が進む地域のニーズに的確に対応する力を育成。



#### ● 事例2(地域志向科目 /1単位)

#### 「地域探検学」

大学から地域に飛び出して、フィールドの聞き取り調査やボランティア体験を通じて、

- ① 地域の人びとと交流を深めながら地域の文化や地域が抱えている問題などを理解する。
- ② さまざまな人から話を聞くことを通して、人間の生き方を学ぶことを目的とする。



#### (卒業後の学生のイメージ)

- ① 「神話」「伝承文化」等を有する山陰地方をフィールドに、文化を資源として生かす知識・技法を習得した観光振興に資する人材
- ② 乳幼児期から小学校低学年までの発達に特化し、地域社会で新たに求められる子育て支援、保護者指導のできる人材
- ③ 地域住民の栄養状態等に応じた高度の専門技術を有し、地域の「食育」「地産地消」等を支える人材

学年	1年	2年
基 礎 科 目	しまね地域共生学入門	
地域志向科目	26科目	
卒 業 研 究		卒業研究

#### (地域志向カリキュラムの特徴)

#### 3キャンパス共通科目「しまね地域共生学入門」

島根県が抱える課題について、概論的に教授することを目的に、3キャンパスの教員がそれぞれの専門から島根地域を理解できるよう受講生に向けて基礎知識の習得を促す。

#### 地域志向科目

学科を超えた「地域課題研究心の育成」という教育方針の下、学生の自主活動の中での、地域研究課題探求心育成を目指す「地域志向」を含む科目履修、卒業研究への学びのロードマップを構築。

課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度(目標値)
シラバスにおいて地域に関する学修を行うことを明示している授業科目	22科目(35単位)	28科目	25科目(41単位)
卒業研究での地域活動・地域課題への取り組み件数	39件(29.8%)	精査中	全体の45%
授業科目以外の各種地域活動への参加人数	延べ322名	延べ498人	延べ330名

### 「COC事業の成果」



島根県  
農畜産振興課企画員  
藤江 弘明

今年度は島根県立大学と連携して、「つや姫」炊飯米の食味を科学的に評価する「おいしさの見える化」、しまね和牛の成分・組成、物理的性質などの理化学分析に取り組みました。島根県立大学での教育研究の成果が地域に還元され、本県の農業振興につながると共に、地域が今後益々活性化することへ強く期待をします。

### 「のんびり雲」



島根県立短期大学部  
総合文化学科文化資源学系2年次  
江田 靖奈

「文化情報誌制作Ⅱ」の授業で、『のんびり雲』という雑誌を作成しました。この雑誌には、山陰の隠れた文化資源の魅力がたくさん詰まっています。企画から取材、紙面レイアウトまで自分たちで行ったため、完成した時は達成感を感じました。とくに浜田のまち歩きをテーマとした商店街の取材では、地域の方々と直接触れ合うことができ、皆さんの優しさを直に感じることができました。地元を大切に思う気持ちは、地元を知ることから生まれるのだと感じました。

## 吉備国際大学

連携自治体：兵庫県、岡山県高梁市、兵庫県南あわじ市

### 事業名：だれもが役割のある生きいきした地域の創成



#### 事業の概要・目的

##### （地域の課題）

連携する地域の共通課題(平成25年度申請時点)

社会的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>急速な高齢化と生産年齢人口の減少</li> <li>コミュニティや絆の希薄化</li> </ul>
経済的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業経済基盤の衰退</li> <li>観光産業の衰退</li> </ul>
環境的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然生態系の劣化</li> <li>街並み景観の劣化</li> </ul>

##### （課題解決のための大学の取組）

教育	これまで学科単位で取り組んできたそれぞれの地域貢献活動について、学科単位で取り組むだけでなく、大学全体での取り組みへと拡大発展させ、全学的一般教養科目の中に、「地域学概論」と「地域貢献ボランティア」科目を新設する。
研究	「文化財総合研究センター」、「心理・発達総合研究センター」、「保健福祉研究所」、「植物クリニックセンター」などでの研究成果を地域に還元する。
社会貢献	保健福祉、心のケア、子育て支援、農学の専門性を活かした地域貢献活動を実施する。

#### 人材育成の取組

##### （人材育成像）

- 高齢者や障がい者をケアするだけでなく、この方々から、熟練伝統技術や地域社会の生き方を学び、大学で学んだ近代科学を融合させ、発展させることのできる人材を育成する。
- 食や農の現場における問題を解決し、地域コミュニティを創成、活性化できる人材を育成する。

##### （目指す人材育成のためのカリキュラム改革）

地域に貢献できる人材の成を目的に、学生の地域貢献意欲を醸成するための地域に向けたカリキュラム改革を行う。

課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度(目標値)
地域に関心を有する学生の割合	47%	60%	90%
地域に関する授業科目を受講した学生の割合	72%	78%	100%

■ **地域学概論**: 地域に起こっている様々な課題解決に向け取り組んでいる地域貢献活動を1年次生に紹介し、地域社会の諸問題に対して大学生として何ができるか考える力を育てる。

■ **地域貢献ボランティア**: 『地域学概論』にて学生が自ら考えた地域貢献を実践することで、将来社会人として地域の課題解決への活動の場へ、積極的に参加する意欲を涵養する。

##### （これまでの成果）

■ **地域志向科目の増加**

H25 94科目 → H26 113科目

■ **『地域貢献ボランティア』の開講**

「キャリア開発Ⅱ」において、地域の小学校や福祉施設等を含む事業所(高梁市:25事業所、南あわじ市:5事業所)で、延べ30時間のボランティアを実施した。活動を通じて、地域の問題点の解決や学生の社会人基礎力の向上に繋げることができた。(履修者54名)

##### ■ 人材育成の取組事例

● 事例1 (卒業研究/4単位/4年次)

##### 「園芸療法」

高梁市内の高齢者施設と協力し、施設職員と本学作業療法学科学生(13名)、教員を中心に施設入所の高齢者を対象に園芸活動を実践し、活動を通じて、学生の高齢者理解、作業療法評価のスキルを高めることができた。



● 事例2 (地域看護学実習 専門科目/選択4単位/3年次)

##### 「健康寿命延伸と介護予防の質向上に寄与する健康づくりプロジェクト」

学生が教科で学んだ理論に依拠し、高梁市宇治地域の介護予防事業や高齢者宅への訪問を通じ看護活動を展開した。臨地体験による専門的実践能力の育成が希求される公衆衛生看護教育に、質的充実と専門職としての人間発達への好ましい影響を得ることができた。(履修者47名)



##### （卒業後の学生のイメージ）

- 高梁市・南あわじ市内の学校・幼稚園等に就職し地域に志向した教育を行う教諭や、病院・福祉施設等へ就職し、積極的に地域に出て医療活動を行う看護師・理学療法士・作業療法士および、その指導者。
- 高梁市・南あわじ市に定住し、地元の農産物を活用した6次産業化に関わる自治体職員・農協職員・食品会社研究員・農業経営者。また、広域的な農業課題解決にも積極的に取り組む「グローバル志向」を有する専門家。

\*グローバル: (グローバル(global)とローカル(local)からの造語) 国境を越えた地球規模の視野と、草の根の地域の視点で、さまざまな問題を捉えたいこうとする考え方。

##### カリキュラムマップ

学年	1年	2年	3年	4年
地域学概論・地域貢献ボランティア	→			
地域志向科目	全113科目 →			

##### （地域志向カリキュラムの特徴）

##### 『里山総合演習』(1単位/履修者162名)

里山フィールドで地元保育園・幼稚園児とともに活動する様々な自然体験学習を通して、人と自然に対する柔らかな感性を身につけ、社会や保育・教育現場における様々な課題に対して創造力を発揮し、解決できる実践力を養成する。



##### 『南あわじ農業学』(2単位/履修者55名)

全国有数の農業生産地である南あわじ地域の現状や発展経過、たまねぎやレタスなどの生産技術、また関係機関や関係業者の取り組みや支援体制などを知り、地域全体での産地づくりについて理解する。



#### 吉備国際大学を拠点とした学園文化都市づくり



岡山県高梁市市長  
**近藤 隆則**

高梁市は岡山県中西部の備中地域に位置し、古来より、教育の中心地として栄え、幕末の偉大な教育・経世家である山田方谷などの先覚者を全国に輩出してきました。現在は吉備国際大学を拠点に学園文化都市として発展し、大学と地域や市が連携して活動することにより、市に活力と賑わいがもたらされています。今後も、この事業によるボランティアの単位化、研究協力などにより、大学と本市の連携がますます深まり、地域の活性化に寄与されることを期待しております。

#### 大学と地域の連携による子育て支援事業に参加して



吉備国際大学  
心理学部 子ども発達教育学科 4年次  
**岩本 匡生**

私は、子育て家庭を対象に手遊びやわらべ歌、絵本の読み聞かせを行う「子育て講座」や子どもの冒険遊び場である「プレーパーク」の活動に取り組んできました。これらの活動で子どもたちや保護者・地域の方など多くの方々と出会うことが出来ました。そして活動の中では、親子と学生の交流や学生同士で協力して行う子どもの遊び場づくりなど将来につながる貴重な体験となりました。これからも地域全体で学び合える子育て支援活動に取り組んでいきます。

## くらしき作陽大学 (共同申請大学：倉敷芸術科学大学)

連携自治体：倉敷市

### 事業名：文化産業都市倉敷の未来を拓く若衆育成と大学連携モデル創出事業



#### 事業の概要・目的

##### 地域の課題

まちづくりのビジョンを共有して地方創生につなぐ

1) 少子化と生産年齢人口の減少  
倉敷市の人口は平成24年をピークにその後減少傾向にあり、生産年齢人口は年々減少して高齢化率は増加している。地域で活躍できる若者の定住化を促進する必要がある。

2) 倉敷市のまちづくりの理念にみる地域課題の明確化  
倉敷市には、8つのまちづくりの理念があるが、本事業は、その中から、2大学のシーズを活かすことができる未来志向の重要課題として、「安全・安心」(地域の災害に対する備災・減災力の育成)、「豊か」(個性的で魅力的なくらしき文化の継承)、「はぐくみ」(障がいの有無によらず、子どもが豊かに学び成長できる地域作り)、「躍動」(若者の定住化)を取り上げた。

##### (課題解決のための大学の取組)

- 教育** ● 地域の課題解決に取り組むことのできる人材「くらしき若衆」を育成する教育プログラムを開発する。
- 研究** ● 倉敷アートスタート研究、五感力育成研究、備災・減災力育成研究を通して、災害への対策が十分に取られている安全・安心な社会作り、子どもが豊かに学び成長できる場の提供、地域の特色を踏まえた魅力的なくらしき文化の創造を図る。
- 社会貢献** ● 教育及び研究の成果を、公開講座「倉敷みらい講座」で公表し、倉敷市のコミュニティの質を高める。

#### 人材育成の取組

##### (人材育成像)

「くらしき若衆」

江戸時代の倉敷の若者が、キャリアステージを経て、「地域活動の中核として活躍できる資質・能力」を獲得していたように、現代に応じた新しい教育プログラムを通して、倉敷の活性化に貢献できる次のような人材を育成する。

- 自律的な課題解決能力が備わった人材
- 地域コミュニティのもつ文化・価値観を継承できる人材
- 地域社会のまちづくりリーダーとして活躍できる人材

※「くらしき若衆」名称の由来  
新修倉敷市史(「江戸時代の倉敷は、若衆の地域活動に支えられて、活気に満ちていたんじや。」)の記述から採用した。



##### 課題に対する大学の取組

	26年度	27年度(予定)	30年度(目標値)
地域内定住の希望学生の割合	15%	16%	20%
地域志向科目の履修学生数	120名	250名	660名

##### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

- 1年次(倉敷を学ぶ)  
「くらしき学講座」(必修科目、1単位30時間)  
町衆講演、倉敷発見オリエンテーションツアー(1泊バス旅行)、学内外の地域貢献活動への参画とグループ学修等により、地域課題解決に必要な主体的な学修態度と基礎的能力を獲得する。
- 1年次～4年次(倉敷で学ぶ)  
「地域貢献実践科目群」(選択科目、1単位16時間または30時間)  
地域課題に対する自律的な問題解決能力を育てるために、専門性を生かした地域課題分析とフィールドワークを企画・実践する。
- 3年次～4年次(倉敷を元気にする)  
「若衆実践演習」(選択科目、1単位16時間)  
地域課題の解決に向けた実践研究の成果を、「倉敷みらい講座」「若衆・町衆フォーラム」で公表し、くらしき若衆「宿老」「中老」を認定する。

宿老	「中老」保持者で、「若衆実践演習」で優秀な成績を修めた者を「若衆・町衆フォーラム」にて認定
中老	「小若」保持者で、「若衆実践演習」を受講し優秀な成績を修めた者
小若	「くらしき学講座」、地域貢献実践科目群2科目の計3科目を受講し、優秀な成績を修めた者

##### (現在の取組)

- 事例1(研究：倉敷アートスタート研究)  
学生による人形劇の制作及び地域での公演

倉敷アートスタート研究において、乳幼児期における人形劇を通じた情操教育の在り方を検討するため、学生約80名と担当教員が、人形劇の制作や、地域の幼稚園や公民館等での公演を行った。



- 事例2(社会貢献)  
公開講座「倉敷みらい講座」の開催  
「倉敷みらい講座」を4回開催し、延べ約350人が参加した。これまでの事業成果報告を基に、地域課題の問題点・展望について参加者と共有した。  
【講座テーマ】  
・インターンシップで倉敷のまちづくり  
・倉敷で育てる 倉敷を育てる  
・何故、備災・減災なのか  
・人形劇で豊かな情操を育てる



##### (卒業後の学生のイメージ)

卒業後、倉敷市へ定住化し、地域の企業や自治体等の団体で、まちづくりリーダーとして地域課題の解決に貢献できる人材。

##### カリキュラム一覧

年次	27年	28年	29年	30年
COC基礎科目	●			
	●	●	●	●
COC専門科目	●	●	●	●
	●	●	●	●
	●	●	●	●

(赤字は新設科目。※は既設科目で授業内容見直し)

段階	音楽学部	食文化学部	子ども教育学部
Step3 倉敷を元気にする 3～4年次 選択科目 (2大学連携科目)	若衆実践演習(倉敷みらい講座) (1単位、16時間)		
Step2 倉敷で学ぶ 1～4年次 選択科目 (地域貢献実践科目群)	※就業力基礎Ⅰ・Ⅱ (Ⅰ・Ⅱそれぞれ 1単位、30時間)	※地産地消実習 (1単位、30時間)	障害児保育実践 (1単位、16時間)
	音楽EX演習 (1単位、16時間)	※商品開発実習Ⅰ～Ⅲ (Ⅰ～Ⅲそれぞれ 1単位、30時間)	行動・学習支援演習 (1単位、16時間)
Step1 倉敷を学ぶ 1年次、必修科目	音楽貢献実践 (1単位、16時間)	※学外実践研修Ⅰ～Ⅳ (Ⅰ～Ⅳそれぞれ 2単位、16時間)	※コミュニティワーク演習 (2単位、30時間)
	※地域貢献実践(1単位、16時間) ※インターンシップ(1単位、16時間)		
	※アセンブリー・アワーⅠ・Ⅱ (2単位、通年科目Ⅰ・Ⅱのうち30時間分が「くらしき学講座」)		

##### (地域志向カリキュラムの特徴)

**COC基礎科目「くらしき学講座」(必修)**  
地域課題発見・体験科目。地域ニーズをテーマに主体的な学修態度を獲得するために、倉敷のまちづくりの理念や町衆講演などにより倉敷の実態を把握した後、主に学内における地域貢献活動に参画し、成果を発表して評価を受ける。

##### COC専門科目「若衆実践演習」等(次年度以降開講予定)

地域ニーズに対する自律的な課題解決能力の獲得のために、専門性を生かした地域課題分析、地域貢献活動、及び実践研究を行う。なお、「若衆実践演習」は、地域リーダーとして活躍できる人材育成を目指すもので、「若衆・町衆フォーラム」にてその成果を発表する。

#### 大学と学生が地域の財産になる



岡山県倉敷市  
倉敷市長  
伊東 香織

倉敷市は歴史・伝統と文化に彩られており、また一方では近代的なコンピナートや老舗に代表されるように、ものづくりの盛んなまちでもあります。その本市に芸術・ものづくり・食文化・子育てのスペシャリストを養成するくらしき作陽大学と倉敷芸術科学大学の2大学があることには大きな意義があります。さらにCOC事業で両大学と本市が連携することで、芸術文化、子育て、備災・減災などの取り組みが進むことと考えています。また、そうした取り組みを通して両大学が地(知)の拠点として地域の財産となること、そして両大学が輩出した若者が本市に住み続け、まちの活性化と地域の魅力が向上することに大きな期待を寄せています。

#### 人形劇を通して、倉敷の子どもと触れ合う



くらしき作陽大学  
子ども教育学部 子ども教育学科 保育園・幼稚園コース 1年次  
田中 有紗

私は、学生による人形劇団「子ども教育学部附属児童文化部ばれっ」とに入部してから1年の間に、様々な経験をさせてもらいました。初公演を迎えた時は、子どもたちの反応を想像できませんでしたが、いざ公演が始まると、人形劇や手遊びにのめり込み、笑顔を見せてくれる子どもたちの姿が本当に嬉しかったです。子どもの反応は色々で、時にはこちらが落ち込んでしまうような素直な言葉もあります。しかし、人形劇を制作し演じる楽しさだけでなく、悩んだり、考えたり、仲間と切磋琢磨しながら成長することによって得られる喜びもあります。これからも仲間と一緒に、倉敷の地域の子どもたちに人形劇を届けながら、お互いに成長し合っていけるように頑張ります。

# 倉敷芸術科学大学 (共同申請大学：くらしき作陽大学)

連携自治体：倉敷市

## 事業名：文化産業都市倉敷の未来を拓く若衆育成と大学連携モデル創出事業



### 事業の概要・目的



#### (地域の課題)

まちづくりのビジョンを共有して地方創生につなぐ

- 1) 少子化と生産年齢人口の減少  
倉敷市の人口は平成24年をピークにその後減少傾向にあり、生産年齢人口は年々減少して高齢化率は増加している。地域で活躍できる若者の定住化を促進する必要がある。
- 2) 倉敷市のまちづくりの理念の共有と醸成  
倉敷市のまちづくりの理念の中から、未来志向の重要な課題として、「地域の備災・減災力育成」、「個性的で魅力的なくらしき文化の継承」、および「子どもが学び成長できる地域づくり」に焦点を当てる。

#### (課題解決のための大学の取組)

- 教育** ● 地域課題解決に取り組むことのできる地域人材「くらしき若衆」を育成する教育プログラムを開発する。
- 研究** ● 倉敷アートスタート、五感力育成、備災・減災力育成の研究を通して、安全・安心な社会の中で、子どもが学び成長できる、魅力的なくらしき文化を創りあげる。
- 社会貢献** ● 教育ならびに研究の成果を公開講座「倉敷みらい講座」で公表し、コミュニティの質を高める。

### 人材育成の取組



#### (人材育成像)

##### 「くらしき若衆」

江戸時代の倉敷の若者が、キャリアステージを経て、「地域活動の中核として活躍できる資質・能力」を獲得してきたように、現代に応じた新しい教育プログラムを通して倉敷の活性化に貢献できる以下のような人材を育成

- 自律的な課題解決能力が備わった人材
- 地域コミュニティのもつ文化・価値観を継承できる人材
- 地域社会のまちづくりリーダーとして活躍できる人材

※「くらしき若衆」名称の由来  
新倉敷倉敷市「江戸時代の倉敷は、若衆の地域活動に支えられて、活気に満ちていたんじや。」の記述から採用しました。

#### 課題に対する大学の取組

	26年度	27年度 (予定)	30年度 (目標値)
地域内定住の希望学生の割合	5%	7.5%	20%
地域志向科目の履修者数	200名	300名	800名

#### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

- 1年次  
「倉敷と仕事」(全学必修科目、2単位、30時間)  
倉敷市のまちづくりの理念を共有し、地域の人々と連携することで、地域課題解決のための基礎的な能力を学ぶ。
- 1年次～4年次  
「地域貢献実践」  
(学部別選択科目、1単位、30時間)  
地域ニーズに対する課題解決能力を涵養するために、専門性を生かした地域課題分析と、フィールドワークを通じた実践研究を行う。
- 3年次～4年次  
若衆実践演習(選択科目1単位、15時間)  
地域課題の解決に向けた実践成果を、市民や町衆(先達)の参加のもと、「若衆・町衆フォーラム」で発表し、優秀な成績を修めた者が、「小若」・「中老」を経て、くらしき若衆「宿老」の認定を受ける。

宿老	「中老」保持者が「若衆実践演習」で優秀な成績を修めた者を「若衆・町衆フォーラム」にて認定
中老	「小若」保持者が「若衆実践演習」を受講し優秀な成績を修めた者
小若	「倉敷と仕事」、「地域貢献実践」科目群2科目の計3科目を受講し優秀な成績を修めた者

#### (現在の取組)

- 事例1(研究:備災・減災力育成研究)  
炊飯シミュレーションによる調理モデルの計画  
災害時、避難場所で使用するための機器等の使用方法や、指定人数分を作るための必要量などについて、研究担当者と学生50人がシミュレーションを行った。



- 事例2(社会貢献)  
「倉敷みらい講座」の実施

「倉敷みらい講座」は、4回開催し、延べ約350人が参加した。この講座では、成果報告をもとに、今後の地域課題についての問題点を参加者と共有した。講座テーマ紹介  
・インターンシップで倉敷のまちづくり  
・倉敷で育てる 倉敷を育てる  
・何故、備災・減災なのか  
・人形劇で豊かな情操を育てる



#### (卒業後の学生のイメージ)

卒業後、倉敷市へ定住化し、地場の企業や自治体等の団体で、まちづくりリーダーとして地域課題の解決に貢献できる人材。

カリキュラム 一覧

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
COC基礎科目	→			
COC専門科目	芸術学部		→	
	産業科学技術学部		→	
	生命科学部		→	

芸術学部	産業科学技術学部	生命科学部
■「若衆実践演習」 (3・4年次 1単位 15時間)		
■「総合プロジェクト実習Ⅰ」 (3年 2単位 60時間)	■「地域体験実習」 (3年 2単位 30時間) ■「プロジェクト実習Ⅱ」 (3年 1単位 30時間)	■「減災・備災体験実習」 (3年 1単位 30時間)
■「総合プロジェクト実習Ⅱ」 (3年 2単位 60時間)	■「プロジェクト実習Ⅰ」 (2年 1単位 30時間) ■「倉敷産業研究」 (2年 2単位 30時間)	■「減災・備災のすすめ」 (2年 2単位 30時間)
■「地域貢献実践」 (3年 1単位 30時間)		
■「まちづくりインターンシップ」 (2年 2単位 60時間)		
■「倉敷まちづくり基礎論」 (1年 2単位 30時間)		
■「倉敷まちづくり実践論」 (1年 2単位 30時間)		
■「倉敷と仕事」(必修科目 1年 2単位 30時間)		

※赤字は新規開講科目

#### (地域志向カリキュラムの特徴)

##### COC基礎科目「倉敷と仕事」(必修科目)

地域課題発見・体験科目。地域ニーズをテーマに外部からも講師を招き、倉敷のまちづくりの理念や町衆による講演、またフィールドワークにより、地域の課題解決に向けて主体的に学ぶ姿勢を身につける。

##### COC専門科目「若衆実践演習」等

地域ニーズに対する自律的な課題解決能力を修得するために、専門性を生かした地域課題分析、地域貢献活動、及び実践研究を行う。なお、「若衆実践演習」は、まちづくりリーダーとして活躍できる人材育成を目指すもので、「若衆・町衆フォーラム」にてその成果を発表し、くらしき若衆「宿老」の認定を受ける。

### 大学と学生が地域の財産になる



岡山県倉敷市  
倉敷市長  
伊東 香織

倉敷市は歴史・伝統と文化に彩られており、また一方では近代的なコンピナートや老舗に代表されるよう、ものづくりの盛んなまちでもあります。その本市に芸術・ものづくり・食文化・子育てのスペシャリストを養成するくらしき作陽大学と倉敷芸術科学大学の2大学があることには大きな意義があります。さらにCOC事業で両大学と本市が連携することで、芸術文化、子育て、備災・減災などの取り組みが進むことになると考えています。また、そうした取り組みを通して両大学が地(知)の拠点として地域の財産となること、そして両大学が輩出した若者が本市に住み続け、まちの活性化と地域の魅力が向上することに大きな期待を寄せています。

### 地域で育てる、防災意識と地域ネットワーク



倉敷芸術科学大学  
生命科学部 生命科学科 4年次  
高橋 千里

私の出身は、東北の山形県です。毎年の大雪や、新潟中越地震、東日本大震災といった災害を間近で経験しました。このような災害を通して、地域の人との関わり的重要性を感じました。倉敷市はとても災害が少なく暮らしやすいまちですが、互助精神や防災への意識が周りの地域よりも低いように感じています。もし、災害が起これば、見ず知らずの人との集団行動も避けられない事態になるかもしれません。備災・減災力育成研究を通して、身近な地域の方たちと関わっていくことで、ネットワークが構築され、そして助け合いの精神が育まれることが、災害発生時の大きな備えと心の支えになるものだと思います。

## 広島大学

連携自治体：広島県、広島市、東広島市

### 事業名：平和共存社会を育む「ひろしまイニシアティブ拠点」



#### 事業の概要・目的

##### (地域の課題)

#### 連携自治体の課題(平成25年度申請時点)

##### 広島地域が直面する重要課題

##### ひろしま平和発信

被爆という事象の伝承と復興経験・平和への思いの世界発信

##### 条件不利地域対策

瀬戸内島しょ部・中山間地域の過疎高齢化対策による地域活性・再生化

##### 障がい者支援

多様な人々が社会に参加できる仕組み作り

#### (課題解決のための大学の取組)

##### 教育

関係自治体・地域代表・連携施設等の協力により平和科目・教養ゼミ(全学必修の教養科目)・ひろしまイニシアティブ特別科目を受講することにより、全学生対象の地域に向き合う現場体験学習を実施する。

##### 研究

地域が直面する課題を提案してもらい、課題解決を行う地域志向研究、そのうち高い評価を受けた研究を地域貢献共同研究として継続的に実施していく。

##### 社会貢献

教育・研究活動により得られた知見・考察・成果などを地域に学生主体のシンポジウムとして年1回還元する。個別のプロジェクトごとに協働した自治体や地域とともに事業成果についてワークショップを行い課題解決の取り組みを共有する。

#### 人材育成の取組

##### (人材育成像)

■ 学生が地域の重点課題解決に向けて自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、解決する機会を提供することで、「ひろしまを知り、理解し、発信する人材」を育成する。

##### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

■ 全学生対象の地域に向き合う現場体験学習

##### 【学部1年次】

平和科目・教養ゼミ(全学必修の教養教育)  
学生が3つの課題の現場に向いて活動する現場体験実習や地域のステークホルダーによる講演などを行い、ひろしまを知り、ひろしまに学ぶ活動のきっかけをつくる

##### 【学部2年次~】

ひろしまイニシアティブ特別科目群  
3つの重点課題の解決に繋がるフィールドワークを中心とする、地域に根差した専門科目。学生が常に変化する地域の重点課題解決に向けて自ら学び、主体的に判断し、その解決へと思考錯誤する機会を提供する。

#### (これまでの成果)

■ 地域志向カリキュラム実施学部の充実。

(H25年度 2学部 137名 → H26年度 5学部 539名)

■ 関係自治体・地域代表・連携施設等への地域課題の聞き取り調査を実施。具体的な課題の抽出と連携体制のさらなる構築を進めた。

■ 人材育成の取り組み事例

● 事例1(教養ゼミ/2単位)

「中山間地域・島しょ部の協力を通じたフィールドワーク」(条件不利地域対策)

生物生産学部1年生約100名が前期に5グループに分かれ、1か所ずつ土曜日にフィールドを調査。フィールド調査の事前学習及び振り返りを必ずそれぞれ1コマずつ(計2コマ)行った。



(広島県)

呉市豊町大長で「大長みかん」ブランドの再構築への取り組みを実施した。

● 事例2(教養ゼミ/2単位)

「地域で暮らす障がい者一ロージョンを中心に」(障がい者支援領域)

教育学部特別支援コースの1年生30名が擬似視覚障害装置を装着、同等の体験をすることで身近に生活する障がい者への接し方、障害児と健常児とが共生して行く上での課題解決方法について学んだ。



(東広島市)

職場体験学習ボランティア障がい者と共に新たな価値観を形成した。

#### (卒業後の学生のイメージ)

● 地域の抱える平和発信などの課題を現場というフィールドで学んだ学生は、「ひろしまを知り、ひろしまを学び、ひろしまを語る」ことのできる人材として、地域から世界というフィールドへ活躍の場をひろげていく。

学年	1年	2年	3年	4年
卒業研究 地域志向 教育研究				▶
ひろしま イニシア ティブ特 別科目		▶		
平和科目 教養ゼミ	▶			

\*教養ゼミ:自主的な学習によって支えられる大学教育へのオリエンテーション機能を果たすため、入学後の早期に知的活動への動機付けを高め、論理的・批判的な思考法と適切な自己表現能力を育てることを目標にした広島大学独自のカリキュラム

#### (地域志向カリキュラムの特徴)

■ひろしま平和発信演習  
(専門教育科目/1単位、講義・集中演習)  
(ひろしま平和発信)

歯学部1年生97名が、原爆被爆者や原爆の伝承に携わっている人物から被爆の実情を学び、夏休み期間中には集中演習として被爆者体験記のデジタル化や平和記念資料館の来館者へのアンケート調査に取り組んだ。  
被爆者から、そして海外から被爆地ひろしまを訪れる人々の「生の声」に触れ、平和を発信することの意義を学ぶ授業科目。



(広島市) 平和記念資料館外国人来館者へのアンケート調査を実施した。

#### ■平和科目

(1科目/2単位、講義)

広島大学の理念5原則のひとつ「平和を希求する精神」に基づき、それぞれの教員が専門とする学問分野や視点から講義し、平和について考える場を提供する。全学で1・2セメスターの月曜日1,2時限指定で開講される授業科目。

#### 課題に対する大学の取組

	25年度	26年度 (予定)	29年度 (目標値)
地域志向カリキュラム実施学部数	2学部	5学部	11学部
地域との連携を意識した教員数	41%	50%	80%

#### 原爆が広島から奪ったもの、そこから“平和”が見えてくる



広島平和記念資料館館長  
志賀 賢治

昭和20年8月6日  
午前8時15分止まった時計  
(平和記念資料館展示品  
二川 一夫氏寄贈)



広島平和記念資料館は「ひろしまイニシアティブ」に参加する学生にとって、平和の原点を知り、施策を深め、世界に発信する拠点となるべき施設です。原爆は広島から「歴史と伝統」を奪ったと同時に、個人々人のかけがえのない『美しい生』も奪いました。学生さんには原爆の遺品や資料を通じて、原爆の惨禍と共に、原爆が「広島から奪ったもの」に思いを致して欲しい。そこから、抽象的ではなく、もっと身近で具体的に当事者意識を持って“平和”とはなにかを学んでくれることを期待します。

#### 広島を中心とした平和発信



広島大学  
歯学部口腔健康科学科1年次  
末廣 智也

【人の手で、戦争も平和も作られる。私は平和を作る側の人間になりたい。】  
(来館者アンケートより)



COCの授業を通して、世界各地から来られた外国人と出会えました。長時間、熱心に館内の展示を見て回られていた姿に大変感銘を受けました。アンケートの協力を求める中で、本当に多様な価値観に触れることができました。近年、民族や宗教の対立からテロや紛争が多発化しています。これらを防ぐためにも、この広島の地で平和を発信していけるようにこれからも活動していきたいと思えます。

## 広島修道大学

連携自治体：広島県、広島市、廿日市市、北広島町

### 事業名：イノベーション・ブリッジによるひろしま未来協創プロジェクト



#### 事業の概要・目的

##### （地域の課題）

広島県は中山間地域の活性化と過疎地域人材の育成、広島市は都市機能の充実強化や産業・観光の振興が急務課題として掲げられているが、共通の課題の一つとして掲げられているのは、まちの**持続可能性や魅力づくりの創出**とそれを当事者として主体的に担う**人材の育成**、そして**人材の継続的確保**である。またその人材は地域に継続的に密に関わるなかで、**地域資源への新しい価値付与**ができる**感性と実践力**が求められる。

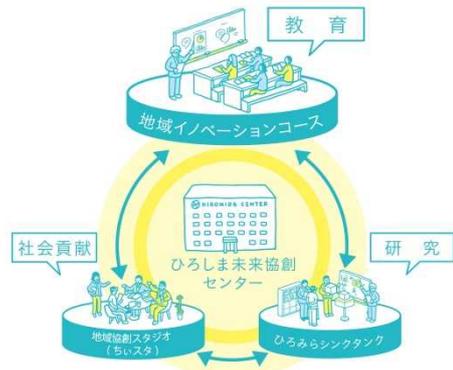
##### 具体的な地域からの課題例

- 広島市西区西広島駅周辺
  - 商店街の衰退、駅周辺地域の活力低下
- 廿日市市佐伯地区玖島・浅原
  - 中山間のコミュニティの衰退・魅力の減少
- 北広島町大朝地区
  - 人口減少・高齢化、基幹産業の低迷等による地域の持続可能性低下

以上より、地域の維持や発展のために、**多様な世代、多様なステークホルダー**とともに、**地域資源への新しい価値を創出し、未来を創る人材を持続的に育成できる仕組みを構築**することに本学は取り組む。

##### （課題解決のための大学の取組）

本学の教育・研究・社会貢献を好循環させながら、「**地域イノベーション人材**」を輩出し、**地域の活性化に持続的につながっていく仕組みを創り出す**。



現在 14 の団体・自治体と提携 提携団体は増加中

#### 人材育成の取組

##### （人材育成像）

- **専門性を活かしながら、持続可能なコミュニティの発展に能動的に寄与できる人材**
- **地域課題の発見を通じて、新たな価値の創造ができる人材**

##### （目指す人材育成のためのカリキュラム改革）

上記の人材育成のため、**全学教育プログラムの地域イノベーションコースを新設**し、学年進行とともに地域との関わりを増やし、各学部学科専門科目やゼミナールPBLで高めた専門性を地域で生かしていく形で講義や実習等を実施。地域イノベーションコースでは下記の講義を新設。

- 1年次：地域イノベーション基礎教育（座学）
- 2年次：ひろしま未来協創プロジェクト（PBL型授業）
- 3年次、4年次：サービラーニング、グローバル・イノベーション・プログラム\*

\* 海外サービラーニングのことであり、現在はポトランドを予定。

##### （これまでの成果）

- **地域イノベーションコース開設・登録開始**  
登録者数 252名（1年生のみ）
- **地域イノベーション基礎教育科目を12科目18クラス開設**  
地域イノベーション論、地域コミュニケーション論、ひろしま未来協創特講等
- **イノベーション コミュニティ サロン3回開催**  
地域イノベーションコースを受講したより意欲の高い学生からの要望に応え新設
- **連携自治体からの実質的支援**  
西広島でのちいスタ提供及び広島県地域課題解決支援事業補助金受託

##### ●事例1（全学共通科目/2単位） 「地域イノベーション論」

この講義では、独自の地域課題を発見でき、それを新しい価値に転換する協創力のある人材作りを目指す。465名受講。



##### ●事例2（全学共通科目/2単位） 「地域コミュニケーション論」

地域イノベーションを実現するデザイン力や発信力、多様性を尊重しながらコミュニケーションできる力の修得を目指す。地域からゲストスピーカー登壇。



ひろみらHP <http://www.hiromira.jp/>

##### 課題に対する大学の取組

地域に関心を有する学生の割合

「地域イノベーションコース」履修学生延人数

##### （卒業後の学生のイメージ）

- ① 「地域イノベーション人材」となって社会で活躍。

起業家、公務員、銀行員、教員等、イノベーションの感性・実践力はどこでも応用可能。

- ② 広い視野と高い専門性を持って、地域課題解決に取り組める。



##### （地域志向カリキュラムの特徴）

2014年度入学生より、全学部を対象に開講。地域イノベーションの基礎と実践を学ぶとともに、各学部の専門性を生かしたPBL型の学びに取り組むことで、**地域イノベーションという専門性と学部の専門性の両面を併せ持った人材**が育つ。

**全学プログラム×学部別プログラム×サービラーニング**を通して、現地（ちいスタ）で学び、現地（ちいスタ）へ還しながら、教育から社会貢献へつなげる。



**グローバル・イノベーション・プログラム**は、地域イノベーションコースで得た技術や知識を海外で実践、また広島で応用できる海外の先進事例を現地で学んで来るプログラムを計画中。

課題に対する大学の取組	25年度	26年度（予定）	29年度（目標値）
地域に関心を有する学生の割合	25 %	43 %	75 %
「地域イノベーションコース」履修学生延人数	0 名	980名	1,300名

#### 中山間地域の活性化に向けた連携について



広島県  
地域政策局 中山間地域振興課長

木村 富美

中山間地域では、少子・高齢化や若年層の流出などにより地域の活力が低下しつつあります。こうした中で、本事業で実施される「ひろしま未来協創プロジェクト」は、教育・研究・社会貢献の循環を通じて「地域イノベーション人材」の育成を目指すなど、地域の価値や魅力の維持・向上に向けて、既に様々な取組が始まっており、県としても、大きな期待を寄せるとともに、積極的に連携・協力して参りたいと考えております。

#### 豊かな自然資源を活用した地域おこし



広島修道大学  
人間環境学部 人間環境学科 3年次

鳥谷 明日香

私たちは、広島県北部の中山間部にある北広島町で、地域活性をテーマに活動しています。そこにある資源を活用して、経済基盤を維持・発展させることが大切だと考え、地元のNPO法人と共に、北広島町の豊かな自然資源を活用した交流事業を企画実践中です。昨年は地元商店街の空き店舗活用と、地元で採れる野草を使った「野草茶」をPRする目的で、1日限定の野草茶カフェを運営しました。私たちの力はまだまだ微力ですが、活性化の基盤となるような企画実践ができるよう努力したいと思います。